

「仕事の中に喜びを感じない」。だれもが一度は教えられたことがあると思います。

ところが、実際にそんな機会はあるのでしょうか。わたしはそんな人をひとり知っています。彼女は明るく素直で、生活に対しても仕事に対してもとても前向きです。サンプルが必要なとき、彼女に頼むと笑顔で「わかったよ」といいます。彼女に任せれば心配は入りません。たとえトラブルが発生しても、彼女は積極的に関連部署に連絡して何とかしてくれます。ある土曜日の晩のことです。彼女はサンプルを間に合わせるのに一生懸命でした。これは翌週月曜日に出荷するものです。しかし、サンプルは出来上がったけれど、品質管理と研究開発の確認を受けなければなりません。そのとき、この二つの部門の同僚たちはすでに退社していました。彼女は日曜日に作業をしてもらうよう、同僚たちに連絡して頼みました。そして自らも出荷に合わせて梱包の作業をしました。また、あるときは営業マンが午後一番でお客様のところへサンプルを届けなければならぬと。そのとき、彼女は朝食を取らずに作業してサンプルの間に合わせました。そんな彼女、素晴らしい彼女は劉佳琴さんです。

上海合璧營業課副課長 歐陽婷



わたしは合璧に入社する前、「5S」の概念、掃除箱という概念について、とても簡単に考えていました。しかし入社後、その考え方は変わりました。面接試験のときのことで、わたしは試験官について工場の正門から試験室に向かいました。途中、歩きながら工場内の美しい景色が目に入りました。そのときわたしを感じたのはとてもきれいな環境、それにどこか親近な感じもするというものでした。また、こんなにきれいな状態を保つなんて清掃会社の人たちはほぼどまじめなんだとも思いました。しかし、その後試験に合格して正式に合璧の従業員となったとき、実はそうではなかったことがわかりました。なんとあのきれいな環境は合璧の従業員たちが毎朝早くて自らの手で掃除した結果なんだということがわかったのです。信じられませんでした。それからしばらく考えたあとで思いました。これは会社が従業員に与えてくれる鍛錬の機会だということ。こういうと、ある人には受け入れられないかもしれません。また、ある人は不満をいうかもしれません。しかし、わたしたちは労働のあとで「禅の精神」に気付くはず。それは一生の財産となり得るもので、一度身につけてしまえば、だれも奪うことのできない宝なのです。

「5S」の中で、わたしは唯一「しつけ」についてよくわかりません。たぶん、よい習慣を身につけるようにということだと思うのですが、これは真似からはじまるものだと思います。よい行動を見たら、それを自分のものとして習慣化するという意味ではないでしょうか。ひとりの方が身につける習慣の良し悪しはその人の一生にまで影響を及ぼします。そして会社のような大きな組織の中では、こうした習慣の良し悪しはその人のちょっとした行動の中からも見て取ることが出来ます。ある人がより多くのお金を稼ごうと思ったら飽えず進歩と発展を続けなければなりません。会社からより条件を与えてもらおうというなら、より会社のために努力しなければなりません。そのためには床に落ちていた部品を拾い上げて再検査することも、開けっ放しの窓を閉めることも大事なことです。どんな小さなことでも進んでやらなければなりません。せっかく董事長が素晴らしい環境を与えてくれたらいいわけですから、わたしたちも頑張らなければならぬと思います。

わたしは合璧に入社してから性格が明るくなりました。以前は無口で人見知りする性格でしたが、合璧がそれを教えてくれました。今では自信に満ちて元気いっぱい自分がいます。董事長は「みんながいつかいつかになって内面から変化していけば、力強く元気になれる」といいますが、わたしもそう思います。ある日、買い物の帰りにオートバイタクシーに乗ったときのことです。運転手はわたしを見て「合璧の従業員でしょ」と話しかけてきました。わたしはどうしてわかったのか驚きました。すると彼は「あなたの雰囲気と振る舞いを見たらわかりますよ」といいました。そのとき、心の中で誇りを感じました。そして「合璧人」でよかったと思いました。

わたしたちは常に学ぶことを続けなければなりません。小さな動作にも深い道理があります。みなさん、董事長を見習って多くのことを学ぼうではありませんか。わたしは「5S」ができたとき、あらゆる問題は解決できると思います。わたしはこれからもよい習慣を身につけて、現状からさらに飛躍していきたいと思っています。

時の経つのは速いもので、わたしが合璧公司に入社してもう三年が過ぎました。この期間中、わたしは金銭面でも人生の経験という方面でも会社から多くの財産をいただきました。

入社したばかりのころ、わたしは管理とは何か、どうやって管理するのか、そんなことは全くわからない社会経験の浅い若者でした。しかし、会社に育てられ、今では一つのラインを任せられ、ちゃんと仕事もできる班長になりました。このほか、上司の仕事を手伝ったり、高級幹部から認められてもらったりするようになりました。そして今は上司にも部下にも愛されています。これらはすべて会社が与えてくれた無形の財産です。このほかにも会社は管理の方法、ほかの従業員とのコミュニケーションの取り方、円満に問題を解決する方法などを勉強させてくれました。こうしたことに心から感謝しています。

今、会社が進めている「関心、關懷、開照（気配りと思いやりをもって接する）」や「同心、同歩、同調（同じ心と同じリズムでともに歩む）」といった理念は深く人の心に届くものとして、高級幹部にも一般従業員にもたいへん好評です。また、董事長は少しずつわたしたちを、「感謝に報いて社会に貢献する」という自らの人生価値観へと誘ってくれます。このほか袁炎さんを助けたときなどは、ここで働くすべての従業員が一つの家族だということを教えてくださいました。合璧を愛することで合璧もわたしたちに愛をくれるのです。

会社は創業40周年を迎えました。この間、5年従業員の黄山旅行、パーベキュー大会、忘年会といった行事、さらには語学、書道、ピアノ、コンピューターなどの研修、各種運動クラブなど、わたしたちの生活にたくさんの楽しみを与えてきています。この感覚はまさに「家」のイメージです。わたしたちはここにアルバイトに來たものではありません。頑張り仕事するために來たのです。

これからは努力を続けたいと思います。董事長の下で頑張りたいと思います。合璧には輝かしい未来が待っているはず。前途は洋々です。だからみなさん、いっしょに頑張っていきましょう！

上海合璧製造課班長 羅正

禅の5Sがわたしを変えた

わたしは合璧に入社する前、「5S」の概念、掃除箱という概念について、とても簡単に考えていました。しかし入社後、その考え方は変わりました。

面接試験のときのことで、わたしは試験官について工場の正門から試験室に向かいました。途中、歩きながら工場内の美しい景色が目に入りました。そのときわたしを感じたのはとてもきれいな環境、それにどこか親近な感じもするというものでした。また、こんなにきれいな状態を保つなんて清掃会社の人たちはほぼどまじめなんだとも思いました。しかし、その後試験に合格して正式に合璧の従業員となったとき、実はそうではなかったことがわかりました。なんとあのきれいな環境は合璧の従業員たちが毎朝早くて自らの手で掃除した結果なんだということがわかったのです。信じられませんでした。それからしばらく考えたあとで思いました。これは会社が従業員に与えてくれる鍛錬の機会だということ。こういうと、ある人には受け入れられないかもしれません。また、ある人は不満をいうかもしれません。しかし、わたしたちは労働のあとで「禅の精神」に気付くはず。それは一生の財産となり得るもので、一度身につけてしまえば、だれも奪うことのできない宝なのです。

「5S」の中で、わたしは唯一「しつけ」についてよくわかりません。たぶん、よい習慣を身につけるようにということだと思うのですが、これは真似からはじまるものだと思います。よい行動を見たら、それを自分のものとして習慣化するという意味ではないでしょうか。ひとりの方が

身につける習慣の良し悪しはその人の一生にまで影響を及ぼします。そして会社のような大きな組織の中では、こうした習慣の良し悪しはその人のちょっとした行動の中からも見て取ることが出来ます。ある人がより多くのお金を稼ごうと思ったら飽えず進歩と発展を続けなければなりません。会社からより条件を与えてもらおうというなら、より会社のために努力しなければなりません。そのためには床に落ちていた部品を拾い上げて再検査することも、開けっ放しの窓を閉めることも大事なことです。どんな小さなことでも進んでやらなければなりません。せっかく董事長が素晴らしい環境を与えてくれたらいいわけですから、わたしたちも頑張らなければならぬと思います。

わたしは合璧に入社してから性格が明るくなりました。以前は無口で人見知りする性格でしたが、合璧がそれを教えてくれました。今では自信に満ちて元気いっぱい自分がいます。董事長は「みんながいつかいつかになって内面から変化していけば、力強く元気になれる」といいますが、わたしもそう思います。ある日、買い物の帰りにオートバイタクシーに乗ったときのことです。運転手はわたしを見て「合璧の従業員でしょ」と話しかけてきました。わたしはどうしてわかったのか驚きました。すると彼は「あなたの雰囲気と振る舞いを見たらわかりますよ」といいました。そのとき、心の中で誇りを感じました。そして「合璧人」でよかったと思いました。

わたしたちは常に学ぶことを続けなければなりません。小さな動作にも深い道理があります。みなさん、董事長を見習って多くのことを学ぼうではありませんか。わたしは「5S」ができたとき、あらゆる問題は解決できると思います。わたしはこれからもよい習慣を身につけて、現状からさらに飛躍していきたいと思っています。

上海合璧品管課同仁 唐妹



不斷地思考與行動  
誠信說變創新卓越  
創造價值共生共榮  
感謝報恩回饋社會

2010/09  
第4期 09月10日發行

出版社：合璧文化基金會 發行人：詹其力 編輯指導：陳慶煜、詹杰文  
總編：王迎春、林生富 編輯委員：何彩綾、吳桂豐、李高燕 印刷：上海絲禾印刷有限公司

董事長のやり方から 合璧の企業文化を体現  
---「小事から大事へ、細部から完全へ、よい習慣から偉大な人物へ」

「わたしたちはみな家族。合璧のことを愛し、合璧もわたしたちのことを愛しています」。いつも董事長とともに唱えるスローガンにわたしは感動と尊敬を覚えます。董事長は73歳ですが、しっかりしていて、情熱と優しさで従業員たちと家族のように接します。だから、このスローガンは合璧の同僚たちの心の声であるとともに、董事長の大きな愛を凝縮したものであるのです。

合璧は創業以来40年にわたって輝かしい発展を遂げてきましたが、これは董事長の処世哲学、価値観、経営理念、企業文化といったものと深い関係があると思います。言い換えれば、これらは経営の過程において不可欠な精神的支柱です。以前、こんな新聞記事がありました。「フォックスコン（富士康）の連続飛び降り自殺事件やホンダのストライキを引き起こしたのは労働者の賃金問題だけではなく、経営の中に企業文化があるかどうか原因と見られる」。これを讀んで、わたしは自分の会社について考えてみたのですが、合璧は董事長の下、早い時期にすでに高いレベルの企業文化を持っていたと思います。董事長は人生の経験も豊富で博学です。しかし、それでも毎月20~30冊の書籍や刊行物を読みます。そして、その中から日常生活や仕事のために文章をまとめています。細かいことですが、董事長はポイントとなる箇所に線を引くとき、必ず真直ぐな線を引きます。二本引くときも二本の線が平行を保つように引きます。こんなところからも董事長が物事をはじめの前にきっちり細かくどこまで計画を立てていることがわかります。董事長は総務部の同僚に線の引き方を教えたことがあります。左手に定規、右手に蛍光ペンを持って一本ずつ彼らの前で線を引きました。それを見て、わたしは驚きました。会社の董事長がこんなに細かくどこまで自ら師範して従業員を指導するだろうか。そして、そんな合璧で働く自分は素晴らしい親や恩師を持ったよう、とても幸せに思えました。

古人のことに次のようなものがあります。「天下の難事は易きところより始めよ。天下の大事は小さきところより始よ」。何事もすべて小さな部分から組み合わさってできています。大きなことがやろうと思ったら、まず小さなところからはじめなければなりません。小さなところを重視する董事長はいつもわたしたちがいろいろ何をかをするを許しません。これを徹底させ、途中でうやむやにすることはありません。また、世間ではよくこういわれます。「何が難しいかといえば、簡単なことをきっちりやることだ。何が非凡かといえば、平凡なことをしっかりとやることだ」。どれだけ大きな目標も、どれだけ偉大な計画も必ず簡単なところ、平凡なところからはじめなければなりません。小さいことを積み重ねることで経験や習慣が身につくのです。こんなことばもあります。「行為という種を蒔けば習慣という収穫がある。習慣という種を蒔けば、性格という収穫がある。性格という種を蒔けば、運命という収穫がある」。人の習慣は一種の潜在意識です。あることに熟練すると、それは潜在意識となり、習慣となります。董事長は最近よく環境に気を遣いなさいといっています。ゴミは適当に捨てず、食事は礼儀正しく、盆栽は所定の場所に置き、事務所では大声で話さずなど、これらはすべて習慣と関連することです。董事長は一家の長のように、こうしたことを何度も辛抱強く従業員に教えます。そしてわたしたちはここから「小事から大事へ、細部から完全へ、よい習慣から偉大な人物へ」ということを学びます。73歳の董事長は厳しく、こだわりも強いですが、礼儀正しく謙虚です。そんな董事長から学ぶことは少なくありません。

去年10月に「関心、關懷、開照（気配りと思いやりで接する）」というスローガンを唱えてから、董事長は進んでそれを実践しています。電話で従業員のことを思いやりたり、千枚近い台湾の記念硬貨を配ったり、従業員と千回以上いっしょに写真を撮ったり、600人以上の従業員と食事をしたり、学校や従業員の実家を訪問したり、早朝に運動したり、コンサートや講演会を主催したり、週末の時間を使って従業員とともに海に出かけたり、文化基金を作ったり。そんな董事長と「同心、同歩、同調（同じ心と同じリズムでともに歩む）」で進んでいきたいと思っています。

董事長によって会社にはピアノ、バドミントン、ピンポン、健美操（東洋医学版のアエロビクス）、フルーツ、クラリネット、書画、ダイビング、英会話、日本語、心身の医療ケアなど多くのサークルが誕生しました。それに週末にみんなが得意料理を持ち寄って董事長とともに食事をする活動も行われています。また、董事長の息子さんの美さんの王さんは新入社員が会社にも馴染めるようにふれあいの機会を持っています。わたしは健美操のサークルを主催しています。健康な体作りは仕事にもよい影響を及ぼします。多くの人が健康を心配する現在、週末を使って適度な運動をすることはよいことです。わたしもみなさんが健康な体と心を持てることを願っています。

わたしたちは董事長を一家の長とした家族です。董事長の大きな愛に守られる合璧人です。だから董事長の期待を裏切らないよう頑張らなければなりません。会社の仕事を自分のこととしてとらえ、常に主人公の立場で全力を尽くさなければなりません。「わたしたちはみな家族。合璧のことを愛し、合璧もわたしたちのことを愛しています」。

上海合璧生管課經理 張炳香